

活 用 技 術

平成 24 年度

多雪条件を活用した晩抽性ねぎ「羽緑一本太」の5月下旬～6月上旬出荷技術		
[要約]消雪の遅い多雪地帯において、晩抽性のねぎ品種「羽緑一本太」を5月25日までに播種し、十分に生育させてから雪下にする事で、5月下旬から6月上旬まで収穫できる。		
農業総合研究所高冷地農業技術センター	連絡先	TEL 025-765-2145 FAX 025-765-3018

[背景・ねらい]

県産長ねぎの周年出荷体系では、5月下旬から6月の出荷が減少する。また、多雪地帯では、この時期に出荷できる野菜品目の開発が求められている。そこで、極めて抽たいの遅い品種と4月下旬消雪という多雪条件を利用して、抽苔が始まる前の6月上旬まで収穫する作型を提案する。

[成果の内容・特徴]

- 1 極晩抽性の長ねぎ品種「羽緑一本太」を用い、十分な越冬前生育量（分岐点長 35cm、葉鞘径 18mm）を確保するため、5月25日までに播種する（図1）。
- 2 基本的に慣行どおりの栽培管理をおこなうが、積雪で沈む分を考慮し、段階的に土寄せして、11月中に土寄せ深 35cm 以上を確保する。また、収穫物の太さを得るため、越冬前までに平均葉鞘径 18mm 程度を確保するよう生育を進める（図2）。
- 3 消雪後、越冬前の葉身はすべて枯死するので、速やかに除去する。
- 4 消雪が4月下旬の場合、その後葉が3枚半展開して収穫が始められるのは5月下旬となる。抽苔は、消雪が4月下旬の場合、6月第2半旬から、消雪を5月中旬まで遅らせると6月第4半旬から本格化するので、その前に収穫を終える（図3）。収量は10aあたり2t程度である（表1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 多雪条件下（根雪期間12月中旬～4月下旬、最深積雪約3.3m）における2作の栽培結果である。
- 2 慣行の秋冬ねぎの病害虫防除の他に、越冬前に小菌核腐敗病の予防を追加する。
- 3 越冬により株は減耗し、生存率も8割を切るため、収穫量は越冬直前の半分となる。
- 4 収穫期間が限定されるため、栽培規模も限定されることに十分留意する。

[具体的データ]

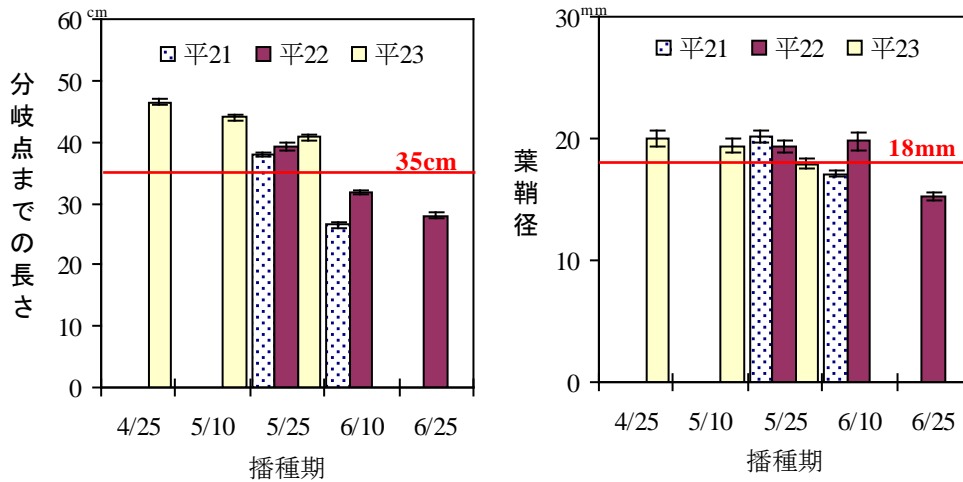


図1 播種期と越冬前の生育量

40～45日チェーンポット育苗(2.5粒まき)、うね間120cm、24～26kgN/10aで栽培。図中バーは標準誤差(n=6)

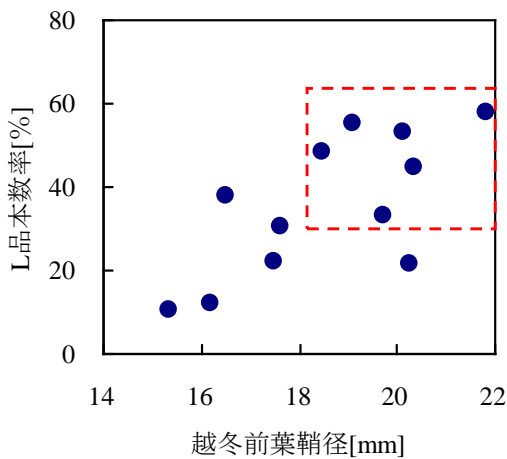


図2 越冬前の葉鞘径と収穫物のL品率

各区1m調査で、収穫後調整したもののL品本数率。
2カ年のデータ。

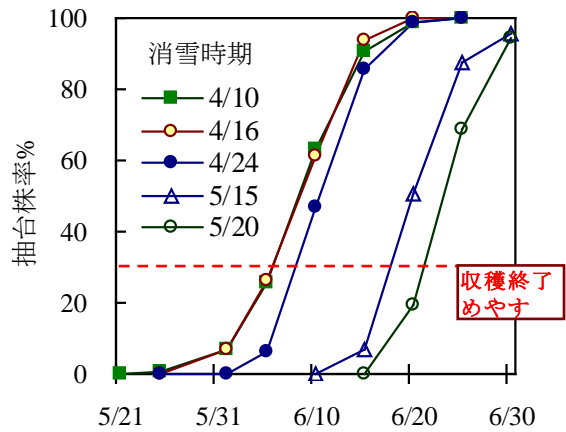


図3 抽苔率の推移

平22.5.25播種、羽緑一本太。調査は平23年春。1m区間調査(n=4～8)。4/10、4/16は機械除雪、5/15、5/20は3月下旬に投雪して消雪を遅延。抽苔率30%を収穫終了のめやすとした。

表1 収量調査結果

播種年	播種日	収穫日	n	収穫本数 本/10a	2L・L率 本数%	A品率 本数%	可販収量 kg/10a	総収量 kg/10a
平21	5/25	6/10	3	28,333	42	62	2,057	2,837
平22	5/25	6/5	2	24,167	47	50	2,231	2,279

1)葉鞘径>20mm:2L、15～20mm:L、10～15mm:M、<10mm:細(規格外)

2)規格外を除くA～B品を可販収量とした。格落ちの主要因は葉数不足、S字曲がり。

[その他]

研究課題名：雪・冷涼な気候・在来種等を活かす園芸生産技術の開発

予算区分：県単経常

研究期間：平成21～23年度

発表論文等：平成23年度園芸学会北陸支部大会